

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

(特活) 関西 NGO 協議会

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動に様々な制約が生じるなか、4 月に関西 NGO 協議会加盟団体と情報共有のための「みんなおんなじ空の下基金」「新型コロナ対応緊急プログラム」等緊急助成プログラムを実施し、また、外務省 NGO 研究会のスキームを活用した日本の国際協力 NGO 対象のアンケートやコンサルテーション等の調査研究を通じ、日本の国際協力 NGO への事業実施面、経営面での影響を分析した報告書(新型コロナウイルス感染症拡大に対する日本の国際協力 NGO の対応戦略)を作成し NGO 団体や ODA 実施機関などと共有した。

普及啓発事業としては、2014 年度より開催している、若い世代の国際協力・SDGs 啓発活動『ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～私たちが描く持続可能な社会の未来図』は、初の完全オンライン開催となり、離島を含む各地域、および海外から多くの高校生や教員が参加した。また、新たに高校生のアドボカシーセクションが設置され、SDGs ユースアジェンダの策定が行われた。今後、世代やセクターを越えたフラットで対等な関係による運営委員会の運営を目指す。また、参加者・関係者のすべてにおいて「子どもの権利条約」を周知し、そのビジョンが反映された企画内容や運営体制を目指す。また、KANSAI-SDGs 市民アジェンダの取り組みは、昨年に続き会場での分科会の開催や海外出張等が叶わなかったが、関西の市民社会が取り組んできた SDGs の取り組みをまとめた「K-SDGs のあるき方 II ～市民のこれまでとこれから～」の冊子を制作した。

提言活動では、昨年度に続き NGO-外務省定期協議会連携推進委員会、NGO-JICA 定期協議会に委員、コーディネーターを派遣し、地域及び中小規模の NGO の環境整備、質の高い国際協力の実現に向けた ODA との対話、政策提言に参加した。NGO-JICA 協議会については NGO コーディネーター側事務局を担うことになった。他には、SDGs 市民社会ネットワーク地域ユニットへの参加や大阪マラソン組織委員会チャリティ専門部会を通じ SDGs に関する提言や関西地域 NGO の支援等に積極的にかかわった。

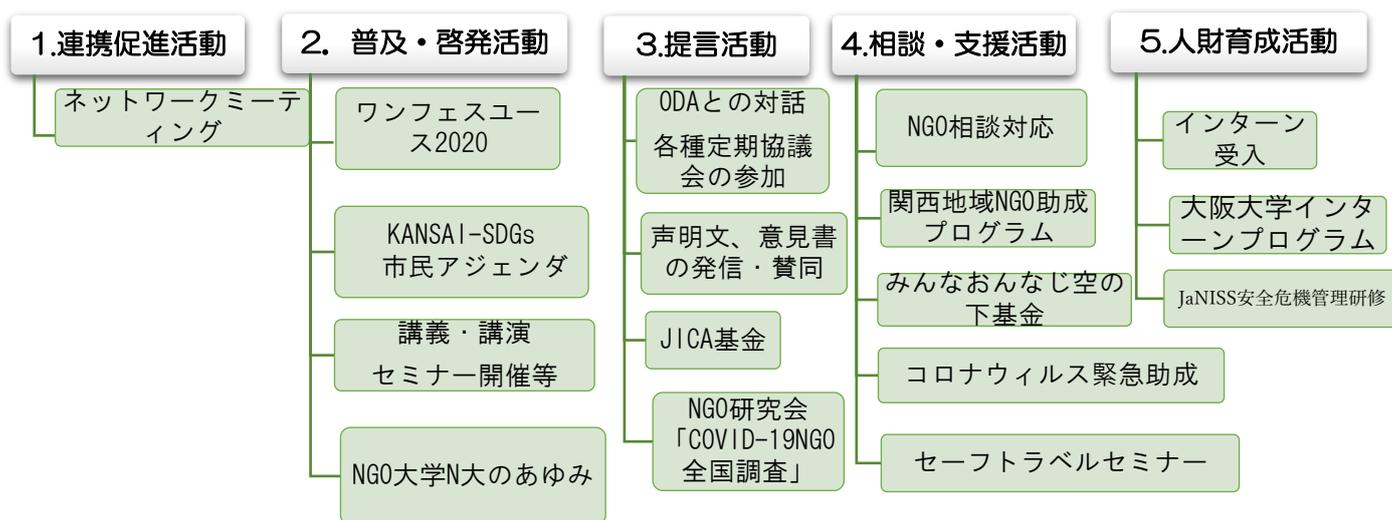
人財育成事業では、JaNISS 関西で NGO のための危機管理研修をオンラインで開催し、今年度は、管理職を対象とした危機管理研修が現地派遣者向け研修と合わせて実施された。

組織強化においては、新しく、SDGs 普及啓発活動担当のフルタイムスタッフを 1 名採用

した。2020年度はフルタイム職員2名（年度途中から3名）、パートタイム職員2-3名、業務委託契約職員2名、インターン3名という体制であった。オンラインによる作業が増えたものの、スタッフ Mtg.の回数を増やし、優先順位をつけながら効率よくリモートワークを実施する体制が整った。

受託事業に頼る組織構造から自主事業の拡大を意識し移行する過程で、少しずつ財源や事業寄付の増加につながってきている。また、課題であったキャッシュフローについては、改善が見られ、年間を通じて安定した財源を確保し活動が継続できている。今後は、事務局人員体制、労働環境を整備し、組織基盤の強化を図ることで、関西地域のネットワーク NGOとして、市民社会の発展と国際協力の推進に貢献することを目指す。

関西 NGO 協議会 5本の活動の柱	
1	NGO 及び、他セクターとの連携促進活動
2	国際協力に関する知識の普及・啓発活動
3	国際協力を促進するための提言活動
4	NGO 活動に関する相談・支援活動
5	NGO 活動に関する人材育成活動



# 1. NGO 及び、他セクターとの連携促進活動

事業名	会員・加盟団体のためのネットワークミーティング 「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する情報共有の呼びかけ」
呼びかけ人	常任理事 吉椿雅道
開催日と開催場所	2020年4月16日（木）14：00～15：30@zoom オンライン
テーマ	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する情報共有
参加者数	関西 NGO 協議会加盟団体・会員 30名
内容	関西 NGO 協議会加盟団体・会員が集まり、国内外のフィールドですすでに取り組んでいることや抱えている課題などを共有し、このコロナウイルスによる危機を共に乗り越えていくための情報を共有した。また、起きている差別や偏見による分断ではなく、NGO として市民の連帯の重要性を確認した。

事業名	会員・加盟団体のためのネットワークミーティング 「COVID-19 危機に対する市民社会の動きとこれから」
登壇者	常任理事 吉椿雅道、副代表理事熱田典子、代表理事三輪敦子
開催日と開催場所	2020年5月16日（木）14：00～15：30@zoom オンライン
テーマ	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する情報共有
参加者数	関西 NGO 協議会加盟団体・会員 40名
内容	COVID-19 に関連した組織運営上の課題を共有し、対応策や支援制度に関する情報を提供。また、NGO として今何ができるか、すべきかを話し合う場とし、吉椿常任理事からは、CODE の海外の CSO とのネットワーク、アライアンスの構築の事例が紹介され、連携推進委員を務める熱田副代表理事からは、外務省や議員に対する国際協力 NGO 支援の要望について報告が行われた。

事業名	コロナ禍の支え合いの現場から「私と地域と世界のファンダ # みんなおなじ空の下」オンラインチャリティーイベント
実施内容	世界的な新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、国境に関係なく、共通の課題を抱える日本や世界の現場の最前線から、世界が連帯・共存・共生を目指しコロナ禍を乗り越えるための声を届けるチャリティー企画を実施した。 チャリティー企画では、日本国内の地域の NPO と国際協力 NGO が同じ空の下で起きている現状や支援実施状況の報告をし、同じ空の下で起きている共通課題を乗り越えるためのクロストークを行った。
コーディネーション担当	佐野（第1回）、高橋（第2回）
実施日時・実施場所	第1回：2020年6月28日（日）17:00～19:00@Zoom 会場 第2回：2020年7月25日（土）18:00～20:00@Zoom 会場
登壇者	常任理事 吉椿雅道（モデレーター）、代表理事 三輪敦子

協力登壇者	第1回： 小川真吾氏（(特活) テラ・ルネッサンス 理事長） 熊谷恵利子氏（(特活) クリニクラウン 事務局長） 第2回： 田中恵子氏 RAFIQ（(在日難民との共生ネットワーク） 共同代表） 永田和子氏（(特定) ダウン症ファミリー総合支援めばえ 21 理事長）
参加者	第1回：約 60 人 第2回：約 45 人
主催	私と地域と世界のファンド運営管理団体

※COVID-19 拡大の影響により 2019 年度開催中止となったセミナーの開催協力

事業名(継続)	<b>セミナー開催協力</b> <b>コロナとの共生時代の到来をうけて</b> <b>－あらためて SDGs 実施指針改定版を読みなおす－</b>
主催/連携先	国際開発学会社会連携委員 岡島克樹 (KNC 理事)
実施日時・実施場所	2020 年 8 月 29 日 (土) 13:00~15:00 会場と Zoom のハイブリッド型 対面型会場：大阪大谷大学ハルカスキャンパス
参加者	オンライン参加を含め 100 名以上の参加
主催	国際開発学会 社会連携委員会 (岡島克樹理事)
実施内容	2019 年末に改定された日本政府の「SDGs 実施指針」についてとりあげ、①その改定のプロセスや内容上の特徴とは何かを整理したうえで、登壇者には、②新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、あらためて「SDGs 実施指針改定版」の利点や課題について講演された。

事業名(継続)	<b>職員研修/分科会セミナー登壇</b> <b>開発教育協会 d-lab2020@沖縄オンライン</b> <b>第 6 分科会「地域ですすめる SDGs～沖縄、北海道、関西から」</b>
分科会登壇者	監事：岩崎裕保
主催	d-lab2020 実行委員会、認定 NPO 法人開発教育協会 (DEAR) NPO 法人沖縄 NGO センター (ONC)
開催日と開催場所	2021 年 2 月 23 日 (火・祝) 14:00~17:00
内容	・持続可能な開発目標 (SDGs) の達成にむけた地域での取り組みとして、北海道、沖縄の事例とともに、KANSAI-SDGs 市民アジェンダやユースアジェンダの取り組みを報告した。 ・KNC 職員は、d-lab の多くのプログラムへの参加を通して、市民社会組織がどのようにより幅広い層の市民を巻き込んだ活動をできるのか、実践者となれるのか、その事例と手法について学びを得た。

\* 参加職員（研修） 佐野、仲井、高橋（それぞれ関心のあるプログラムに参加）

[ブログをみる](#)

新型コロナウイルス  
緊急支援基金

私と地域と世界のファンド

# #みんなおなじ空の下

新型コロナウイルス感染症の危機を乗り越え、「私」「地域」「世界」をつなぎ、最も影響を受け支援を必要とする人や地域と一緒に前に進んでいくための基金です。

そして、SDGs達成の道につながる基金でもあります。



地域に寄付する



世界に寄付する



+



地域+世界に寄付する

## 2. 国際協力に関する知識の普及、啓発活動

事業名（継続）	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020online ～私たちが描く持続可能な社会の未来図～
担当	事務局：佐野、高橋、谷川、仲井 アルバイト：中川、林、前田      インターン：小松、鈴木、竹西 運営委員：栗田（運営委員長）、田尻（会場調整）、熱田（審査員） 協力役員：三輪（ユースアジェンダ指導）、吉椿（共催プログラム）
審査員協力	坂西卓郎氏（PHD 協会）、石崎雄一郎氏（ウータン・森と生活を考える会）、東川貴子氏（緑の地球ネットワーク）、片田孫朝日氏（灘高校・教員）、安里佳世子氏（大阪府教育センター）、林田雅至氏（大阪大学教員）、熱田典子氏（アジア協会アジア友の会）、山上正道氏（AMDA 社会開発機構）、佐藤正隆氏（リタワークス(株)）
コメンテーター協力	榛木恵子氏（個人会員）、栗田佳典氏（テラ・ルネッサンス）、坂西卓郎氏（PHD 協会）、大豊盛重氏（日本国際協力民間協力会）、菊地健氏（ボランティア会員/ソシオ・プロダクト）、多田茉莉絵氏（Sony Depthsending Solutions 翻訳コーディネーター）
実施日時	2020年12月20日（日）10：00～16：00
実施場所	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 公式ホームページ特設会場
受益対象者 および人数	参加者総数 1,200人（延べ）、参加高校 38校 （参加高校生・教員約500人、関係者及びNGO約180人）
共催・協力	【主催】ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会（高校教員、ユース、加盟NGO職員、企業で構成）、特定非営利活動法人関西NGO協議会 ※共同主催 【協力】大阪大学COデザインセンター、公益財団法人大阪YMCA、一般社団法人ソーシャルギルド、NEC ネットエスアイ株式会社、ワンフェスユースOV会、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 高校生実行委員会&ユース提言セクション
補助金/助成金	外務省 NGO 事業補助金/カメイ社会教育振興財団/日蓮宗あんのん基金 近畿ろうきん・社会貢献預金/地球環境基金（一部プログラム）
実施内容	①「世界的な視野を持って、社会課題の解決に向け行動がとれる次世代の育成」、 ②「関西地域で、高校生を含めた国際協力分野に関わるセクターのネットワークの強化・連携の促進」を目的とし2014年度より実施、今年度は第7回である。 事務局は関西NGO協議会が担当。企画立案やオンライン特設会場のデザイン、ボランティア受け入れ計画を高校生が8月から長期の準備期間を経て担当した。事業の中心に高校生が深く、主体的に関わり、SDGs 達成の重要なアクターとして国際協力イベントを実施した。 昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のもと、安全に実施するためオンライン開催とした。オンライン開催により、普及啓発効果の低下が懸念されたが、アンケート結果からは、これまでと同等の効果があったことが確認できた。オンライン開催により、関西の高校生を中心に全国各地、離島や僻地、海外にもプログラムを提供できた。また、オンライン化により事業の魅力であったネットワーキング

効果が低下するため、ポスターセッション登壇者、当日運営ボランティア、学校教員を対象に新たにオンラインイベントを企画し、大変好評であった。さらに、過去に企画運営に深く携わった高校生・大学生たちが、協力団体として現役の高校生委員会をサポートした。ICT を駆使した自発的な会議が増え、より一層、高校生主体の活動となった。

本事業の普及啓発活動が、参加高校生に与える影響については教員からも高い評価を得ている。継続的な開催により、関西地域で定着し、新聞掲載や認知度向上から事業の信頼性が高まり、学校と組織単位での良好な関係を築いており、相談支援活動との相乗効果がある。これまでに、NGO や教育機関・各地域の国際協力センター職員等から注目を受けてきた。近年は、各地域で様々なセクターが協力して次世代を育成する事業のモデルが増えた。今後も本分野での若い世代の育成や多様なセクターとの連携・協働が益々重要となる。引き続き、国際協力普及啓発活動を通して、SDGs 達成の重要なアクターである若い世代のアクションやチャレンジを支援する場をつくり、日本社会における若い世代のプレゼンスの向上を目指すことで、SDGs を推進し、国際協力の担い手を育成する。

**【2020 年度 事業の概要】**

名 称	『ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020 Online』
サブタイトル	～私たちが描く持続可能な社会の未来図～
内 容	オンラインポスターセッション、高校生国際協力助成プログラム成果報告会、高校生企画の開会式、NGO との協働プログラム、ワークショップ、トークセッション、閉会式、企業・NGO 等による動画配信プログラム、ユースアクション報告会、ユース提言シンポジウムなど
後 援	外務省、文部科学省、JICA 関西、ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター、大阪府国際交流財団、大阪府教育委員会、開発教育協会、朝日新聞社、関西 SDGs プラットフォーム
協 賛	ジブラルタ生命保険株式会社、リタワークス株式会社、真如苑、日本労働組合総連合会大阪府連合会（連合大阪）、近畿労働金庫
助成金等	外務省 NGO 事業補助金事業、公益財団法人カメイ社会教育振興財団、独立行政法人環境再生保全機構（※ユース提言セクション）、日蓮宗あんのん基金助成事業、近畿ろうきん・社会貢献預金（笑顔プラス）寄付金

事業名（継続）	<b>講演、講座、講師紹介</b>
担当	事務局：高橋、仲井 協力役員：熱田、吉椿、武田、栗田 ほか、加盟団体・個人会員（以下参照）
実施内容	大学や他セクターからの依頼で、国際協力 NGO の活動や国際協力の潮流について、国外・国内の事例を併せ広く学生、社会人に周知する講座の講師、加盟団体への講師紹介を行った。

	講演・講義依頼（主なもの）	講義名	受講者人数
	龍谷大学（後期、全15回）	『国際 NGO 論』 ※NGO ユニット型講座	龍谷大学経済学部・ 法学部の学生 35 名

<龍谷大学ユニット>（今年度は全て zoom で実施）

	授業日	講師名	テーマ	所属団体
1	9月23日	高橋美和子 仲井友佳子	授業ガイダンス SDGs 概論	(特活) 関西 NGO 協議会
2	9月30日	高橋美和子	私たちの生活と世界とのつながりについて	(特活) 関西 NGO 協議会
3	10月7日	熱田典子	水の問題と保健衛生～ネパールの事例から～	(公社) アジア協会アジア友の会
4	10月14日	奈良雅美	途上国・日本国内での女性の自立を目指した支援	(特活) アジア女性プロジェクト AWEP
5	10月21日	石崎雄一郎	ボルネオの熱帯林破壊と私たちの消費生活とのつながり	ウータン・森と生活を考える会
6	10月28日	伊与田昌慶	気候変動と市民社会:COP 参加経験から	(特活) 気候ネットワーク
7	11月4日	栗田佳典	子ども兵の課題と日本の NGO の挑戦	(特活) テラ・ルネッサンス
8	11月11日	役重善洋	パレスチナ/イスラエル問題から「民族」と「宗教」を考える	パレスチナの平和を考える会
9	11月18日	中尾秀一	難民の現状と日本在住難民の課題	(公財) アジア福祉教育財団 難民事業本部
10	11月25日	小吹岳志	SDGs 目標 1 2 の達成を実現させる消費社会を考える	持続可能な消費ネットワーク
12	12月2日	松岡秀紀	企業のサプライチェーンから人権問題を考える	(一財) アジア・太平洋人権情報センター (ヒューライツ大阪)
11	12月9日	武田かおり	意見を政策に反映させ、よりよい社会の実現を目指す方法	(特活) AM ネット
13	12月16日	伊藤容子	スマホから考える世界・わたし・SDGs	(特活) 開発教育協会
14	2021年 1月6日	吉椿雅道	災害支援の現場から考える市民社会	(特活) CODE 海外災害援助市民センター
15	1月13日	仲井友佳子	全講義の振り返り	(特活) 関西 NGO 協議会

事業名	※地球環境基金 <b>KANSAI-SDGs 市民アジェンダ策定の取り組み</b>
担当	KANSAI-SDGs 市民アジェンダ事務局：仲井、高橋、岩崎、熱田 【分科会座長・副座長】新田、田尻、三輪、吉椿、栗田、東川 【分科会アドバイザー】岡島、松岡
実施内容	<p> <b>■KANSAI-SDGs 市民アジェンダ策定の取り組みのための分科会</b>          ・第 11 回分科会（まとめの位置づけとして）(12/9)『人権』発題者：早崎直美・村上自子 参加者:17 名（※完全オンライン(zoom)形態での開催）       </p> <p> <b>■ユースアジェンダの策定</b>          高校生の専門チーム「ユース提言セクション」を立ち上げ、ユースアジェンダとして貧困と差別に関する提言書を作成した。提言書や提言書作成のために行った調査の内容について、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 内にて開催したオンラインシンポジウムで発表した。提言書の全文（日本語版・英語版）は専用ウェブサイトにて公開し、要約版を後述の最終報告冊子に掲載した。       </p> <p> <b>■KANSAI-SDGs 市民アジェンダ最終報告冊子『KANSAI-SDGs のあるき方 II ～市民のこれまでとこれから～』作成</b>          関西の市民社会の過去（歴史）・現在・(COVID-19 パンデミックを踏まえた)未来を中心テーマに据え、分科会を中心に本活動をまとめた最終報告冊子を作成した。分科会については、中間報告書に掲載したものも含め、改めて全分科会を振り返り、話題提供者の方に原稿を寄せていただいた。その他、加盟団体からの寄稿やユース提言セクション・ユースアジェンダについても掲載した。また 2025 年開催予定の大阪・関西万博が「SDGs 万博」と謳われていることから着想を得て、紙面上で関西の市民社会が考える「SDGs 万博」を表現するパートも設けた。       </p> <p>         その他中間報告冊子を踏襲し、広く市民の皆さんに手に取ってもらえるようなものを想定し、読み仮名や QR コードで情報アクセスに工夫をした。デザインも中間報告冊子に引き続き、パーキーパット・デザインズの前田慎也さんに担当いただいた。       </p> <p> <b>■運営委員会の開催</b>          最終報告冊子、ユースアジェンダ策定、人権分科会開催についての協議（オンライン・対面合計 4 回、平均 6 団体が参加、延べ 23 団体）       </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 14 回運営委員会（9/4）（※zoom）          「KANSAI-SDGs 市民アジェンダ最終報告冊子、ユース提言セクションとの連携について」 参加 13 名</li> <li>・第 15 回運営委員会（10/1）（※少人数対面）          「最終報告冊子について」 参加 4 名</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 16 回運営委員会 (10/8) (※zoom) 「最終報告冊子について」 参加 12 名</li> <li>・ 第 17 回運営委員会 (10/30) (※少人数対面) 「最終報告冊子、人権分科会について」 参加 5 名</li> </ul> <p>■d-lab での活動紹介・他地域との事例共有</p> <p>岩崎委員が発表者として、d-lab 内の分科会「地域ですすめる SDGs～沖縄、北海道、関西から」に出席し、本活動を紹介した。沖縄や北海道など他地域での取り組みも紹介され、一般参加者とも一緒に事例や情報の共有を図った。</p>
--	---

事業名 (継続)	<b>関西 SDGs プラットフォーム運営委員会・総会の参加</b> (事務局：JICA 関西他/近畿経済産業局)
担当	副代表理事：熱田
実施内容	<p>第 9 回運営委員会 8 月 24 日</p> <p>議題：SDGs 基金設立の検討他、</p> <p>場所：関西広域連合大会議室 (大阪国際会議場 11 階)</p> <p>ユース SDGs ユース・ミーティング 2020 3 月 13 日</p> <p>SDGs アイデアコンテストに審査委員として参加</p> <p>場所：放送芸術学院専門学校</p>

事業名	<b>関西 NGO 大学</b>
担当	元関西 NGO 大学運営委員のメンバー
実施内容	<p>2020 年度は、関西 NGO 大学運営委員会の解散が決定され、2021 年度は 30 年のあゆみを振り返り、参加型の講座やワークショップでの学び、修了生を中心とした運営委員会による企画運営の内容、関西をはじめ全国の NGO/CSO への影響や役割についてまとめた冊子を作成、出版し関係者に広く配布することとなった。(報告者：荒川共生)</p>

### 3. 国際協力を促進するための提言活動

事業名 (継続)	<b>提言専門委員会開催、各協議会の参加、JICA 基金の運営及び審査</b>
担当	<p>担当部署：理事会</p> <p>担当理事・会員：</p> <p>熱田典子 (副代表・NGO-外務省定期協議会連携推進委員会委員)</p> <p>吉椿雅道 (常任理事・NGO-JICA 協議会コーディネーター)、</p> <p>河合将生 (提言専門委員会外部アドバイザー、JICA 基金運営委員)</p>

	事務局：高橋
事業目的と内容	<p>※COVID-19 感染症拡大の影響により本年度は開催回数例年より減少</p> <p>NGO と ODA 関連機関との対話の場へ参加、関西 NGO 協議会から委員やコーディネーターを派遣した。また、中小規模 NGO や地域の NGO が活用しやすい制度設計についても、NGO 側の意見を集約し提言を担う。</p> <p>■NGO-外務省定期協議会連携推進委員会 2020 年 11 月 24 日 14:00~16:00 場所：外務省南 761 国際会議室 司会：熱田典子（特活） 関西 NGO 協議会 副代表理事 田原光児 外務省 国際協力局 民間援助連携室 首席事務官</p> <p>■NGO-JICA 協議会 2020 年 6 月 30 日/2021 年 3 月 1 日（オンライン開催） 出席者：吉椿、高橋</p> <p>NGO-JICA 協議会の地域移管へのプロセスはある程度進捗が見られるものの、報告事項が中心となり、積極的な議論・協議の場とはなっておらず、協議体としての課題が残る。議事録の作成が行われないことも要因と考えられる。</p> <p>■第 2 回関西 NGO-JICA 協議会（JICA 関西）は開催されなかった ■JICA 基金運営委員 2020 年 9 月 15 日 出席者：河合</p> <p>JICA 基金運営委員会の参加、方針決定及び申請書の審査業務全般 (JICA 基金活用事業の国内拠点への移管/募集時期を 2021 年 4 月に延期/伴走支援制度の整備)</p>
実施場所	外務省/オンライン、JICA 東京/オンライン
受益対象者および人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ODA の使い道・使い方に関心を持つ NGO/CSO/市民など</li> <li>・外務省及び JICA の支援スキームを活用している NGO、あるいは今後活用を予定している中小規模/設立間もない NGO など</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関西 NGO 協議会提言専門委員会/政策アドバイザー 2018 年度より委員会は休会となっている。JICA 基金運営委員については、2018 以降、河合将生氏（office musubime/個人会員）に KNC 提言専門委員会外部アドバイザーの立場で、理事会・事務局と連携を取りながら務めていただいている。また、2020 年度は井川定一氏（連携推進員政策アドバイザー/個人会員）に同上の立場で外務省 NGO 研究会の業務を務めていただいた。</li> <li>・各協議会の詳細</li> </ul> <p>■NGO - 外務省定期協議会 詳細・議事録：外務省 ODA（政府開発援助）ホームページ <a href="https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/shimin/page22_000969.html">https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/shimin/page22_000969.html</a></p> <p>■NGO - JICA 協議会 詳細・議事録：JICA NGO との定期会合ホームページ <a href="https://www.jica.go.jp/partner/ngo_meeting/index.html">https://www.jica.go.jp/partner/ngo_meeting/index.html</a></p> <p>■JICA 基金運営委員会 詳細・運営委員会記録：<a href="https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/08.html">https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/08.html</a></p>

事業名（継続）	<p>【受託】 外務省 NGO 研究会</p> <p><b>「新型コロナウイルス感染症拡大に対する日本の国際協力 NGO の対応戦略」</b>（Towards a Resilient Society: Redesigning Japanese NGOs under the impact of COVID-19 pandemic）</p>
実施体制	<p>研究会コーディネーター</p> <p>（特活） 関西 NGO 協議会副代表理事熱田典子</p> <p>（特活） 関西 NGO 協議会提言専門委員政策アドバイザー井川定一</p> <p>NGO 安全管理イニシアティブ（JaNISS） コーディネーター折居徳正</p> <p>（公社） セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン グローバル戦略ディレクター塩畑真里子</p> <p>（特活） 難民を助ける会（AAR Japan） 専務理事・事務局長堀江 良彰</p> <p>研究会アドバイザー</p> <p>（特活） NGO 福岡ネットワーク 連携推進担当 河上雅夫</p> <p>事務局：</p> <p>調査統括：高橋美和子</p> <p>研究会会計管理業務：谷川詩織、仲井友佳子</p> <p>研究・調査補助業務：中川寛子、同インターン 竹西優香</p> <p>報告会オンライン運営業務：佐野光平</p> <p>実施協力団体：</p> <p>（特活） 沖縄 NGO センター（沖縄地区）</p> <p>（特活） NGO 福岡ネットワーク（九州地区）</p> <p>（特活） えひめグローバルネットワーク（四国地区）</p> <p>（特活） 名古屋 NGO センター（中部地区）</p> <p>（特活） 国際協力 NGO センター（関東地区）</p> <p>（特活） IVY（東北地区）</p> <p>（一財） 北海道国際交流センター（北海道地区）</p>
主催	外務省
事業内容	<p>〔研究調査の目的〕</p> <p>1) COVID-19 感染者の増加に伴う「短期的（2020 年 3 月から約半年間）」な日本の国際協力 NGO への事業実施面、経営面での影響を把握、分析する。</p> <p>2) COVID-19 拡大に伴い、日本の国際協力 NGO において今後加速すると思われる事業・経営方針の大幅な変化を特定する。</p> <p>3) 2)に対して、日本の国際協力 NGO で既に実施されているグッドプラクティス（優れた取り組み）を把握、分析し、教訓を引き出す。</p> <p>4) 2)に対して、3)や世界の NGO、異業種の例も参考にしつつ、3 年以内に日本の国際協力 NGO が整備すべき組織基盤や経営戦略を整理する。</p> <p>〔アンケート調査等〕</p> <p>実施期間：2020 年 10 月 8 日（木）～25 日（日）</p>

	<p>回答数 147 団体、コンサルテーション実施 20 団体、  * 最終報告会の開催 (3/5) 参加者 158 名  〔最終報告書〕  「新型コロナウイルス感染症拡大に対する日本の国際協力 NGO の対応戦略」  <a href="http://kansaingo.net/kncnews/seisaku/20210407.html">http://kansaingo.net/kncnews/seisaku/20210407.html</a></p>
--	---

事業名(継続)	<b>文科省地域との協働による高等学校教育改革推進事業</b> 奈良育英西高等学校グローバル型コンソーシアム運営委員
担当	理事：田尻、事務局補佐：高橋
内容	グローバルな視点を持って地域を支えるリーダーを育成するため、コンソーシアム運営委員会（年 2 回内 1 回はオンライン開催）に参加し事業内容や学内の取り組みに対して提言を行った。

事業名(継続)	<b>大阪マラソン組織委員会チャリティ専門部会運営委員</b>
担当	事務局：高橋
内容	大阪チャリティマラソン支援先団体（NGO,NPO など）の審査、選考基準の策定等にかかわり、スポーツを通じたチャリティ文化の醸成に寄与する。COVID-19 の影響で大阪マラソンが中止となり、委員会の開催も行われなかった。

【声明の発信、賛同、パブリックコメントの提出】

メッセージの発信	<b>「新型コロナウイルス 感染症拡大の中で、市民社会組織・NGO として何ができるか／何をしないといけないか」</b>
発信者	代表理事：三輪敦子
内容	<p>2020 年 4 月 16 日に開催した「関西の NGO 間における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する情報共有会」の閉会挨拶の内容をメッセージとして発信した。</p> <p>(1) 感染拡大が私たちに突きつけているのは人権の問題  (2) パンデミックへの対応による市民社会スペースの縮小と政治  (3) 市民社会組織・NGO として何ができるか／何をしないといけないか</p>

声明の賛同	<b>「日本政府への要請：新型コロナ克服のための取り組みを世界全体で進めるため医薬品・医療技術の知的財産権保護を緩和し、共有化・協力の促進を」</b>
発信者	新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！連絡会
担当	理事会
内容	COVID-19 の医薬品や関連技術に関する知的財産権保護を、COVID-19 収束まで免除し、知的財産権の共有化や協力を促進しようとする提案が、南

	ア・インドにより WTO（世界貿易機関）に提案された。途上国・新興国を中心に多くの支持が広がったが、日本は他の先進国とともにこの提案に反対しており、日本政府を含め、共有化・協力を促進すべく、仕組みを変えていくことへの日本政府への要請に対して賛同した。
--	---

声明の賛同	<b>ミャンマー情勢に関する要請書、声明への賛同</b>
担当	理事会
内容	<p>ミャンマー情勢を鑑み発信された以下の要請書、声明に対して賛同した。</p> <p>&lt;要請書&gt; 「日本の対ミャンマー公的資金における国軍ビジネスとの関連を早急に調査し、クーデターを起こした国軍の資金源を断つよう求めます」</p> <p>&lt;共同声明&gt; 「私たち日本の市民社会は、日本政府に対して、ミャンマー市民の人権を守るためのアクションを求めます」 パンデミックへの対応による市民社会スペースの縮小と政治</p>

## 4. NGO 活動に関する相談・支援活動

事業名（継続）	【受託】外務省 NGO 環境整備事業 <b>国際協力に関する相談対応、出張サービス（ブース出展、講演など）の実施</b>
	事務局：高橋、佐野、仲井、谷川
実施日時	適宜対応
実施場所	関西 NGO 協議会事務所、諸会合、学校、オンライン
受益対象者および人数	国際協力に関心のある個人、団体、教育機関、企業など 相談数：518 件 出張サービス：4 件
実施内容	<p>2020 年度の上半期は、新型コロナウイルス感染症拡大による NGO の海外渡航の相談や組織運営および継続の相談が増加し、助成金や給付金、補助金の情報を提供した。また、在宅勤務やデジタル化に伴う ICT ツールの活用の相談対応が増加した。</p> <p>上半期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、教育関係者や高校生の他、企業向け研修の講演依頼は減少したものの、下半期は、オンラインでの出張相談や対面式の出張相談サービスの依頼も徐々に回復傾向にあった。</p> <p>当会に寄せられた国際協力、NGO 活動に関する相談、国際協力、SDGs に関する講演やイベントでのブース出展依頼に対応した。中間組織や業界団体とのネットワーク、NGO と企業、NGO と一般市民との連携や協力関係づくりも意識して取り組んだ。</p> <p>以下は新型コロナウイルス感染症拡大の影響のもと、オンラインで実施した。</p> <p>近畿ブロック相談員ミーティング(2 回)、全国相談員連絡会議(1 回)、EARTH CAMP 輪になって語ろう。地球の未来 (2 件)</p>

事業名（継続）	<b>新型コロナウイルス緊急基金</b> <b>私と地域と世界のファンド # みんなおんなじ空の下</b>
実施内容	<p>「私と地域と世界のファンド#みんなおんなじ空の下は、新型コロナウイルス感染症の拡大により団体の運営に影響を受けている、かつコロナ禍で困難な状況となっている人々を支える事業・活動を行う NGO・NPO などの非営利団体への助成を通じて NGO・NPO に寄付を届けるための基金である。</p> <p>本基金を通じて、関西、そして同じ空の下につながる世界のコミュニティが変容と元気を取り戻し、SDGs の謳う「誰ひとり取り残さない社会」の実現を目指した。</p>
担当	理事：三輪敦子、吉椿雅道、中山麻衣子（税理士） 事務局：高橋、佐野、谷川

運営管理団体	(特活) 関西 NGO 協議会、(社福) 大阪ボランティア協会、(一財) 泉北のまちと暮らしを考える財団、(株) リタワークス株式会社※システム提供
基金設置協力	(公財) 地域創造基金さなぶり、(一社) 全国コミュニティ財団協会
協力団体	(特活) 関西国際交流団体協議会、(特活) 大阪 NPO センター
助成期間	2020 年 1 月 1 日~2020 年 10 月 31 日
助成テーマ	新型コロナウイルス感染症緊急支援
助成先 (35 団体、五十音順)	アイキャン、アジア協会アジア友の会、いくの学園、大阪教育文化振興財団、大阪 YWCA、小山田小学校区子ども食堂 チャイルドシート、カウンセリングスペース「リヴ」、関西いのちの電話、ここ、KADOMA 中学生勉強会、子どもアドボカシーセンター-OSAKA、子どもネットワーク ワルツ、CPAO JAE、すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク (RINK)、ダウン症ファミリー総合支援めばえ 21、団欒長屋プロジェクト、チャイルド・ケモ・ハウス、D×P、テラ・ルネッサンス、トゥギャザー、日本国際飢餓対策機構ハンガー・ゼロ、日本クリニックラウン協会、日本国際民間協力会 NICCO、PHD 協会、フェア・プラス、FAIR ROAD、Future Code、フリースクールはらいふ、Bokk Jambaar、ママコミュ! ドットコム、み・らいず 2、みんなの未来かいたく団、やんちゃファミリーwith、RAFIQ (在日難民との共生ネットワーク) 助成総額：6,522,000 円
審査	日時：2020 年 8 月 12 日 (水) 12:00~16:00 オンライン
支援先選定委員会 審査委員	沢田薫氏 (一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会) 新田英理子氏 (一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク (SDGs JAPAN)) 山元圭太氏 (合同会社喜代七)

事業名 (継続)	<b>第 5 回 関西地域 NGO 助成プログラム</b>		
担当	理事：中山麻衣子 事務局：高橋、佐久間		
共催	宗教法人 真如苑		
最終審査 (公開プレゼン)	日時：2020 年 11 月 28 日 (土) 13:00~18:30 会場：オンライン		
助成期間	2010 年 12 月 1 日~2021 年 10 月 31 日		
助成テーマ	①組織基盤強化助成 ②プロジェクト実施助成		
助成先	プロ ジェ クト	公益財団法人大阪 YMCA	Aqua watch project

	プロジェクト	特定非営利活動法人 FootRoots	Pendiente del Destino-女性の未来を彩るクラフトジュエリーワークショップ-
	組織基盤	RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）	コロナ禍の関西の難民支援を支える電子決済システムとオンライン環境整備
	組織基盤	すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク（RINK）	オンライン相談開始とホームページ刷新により活動の充実及び継続を図る事業
(総額 120 万円)			
審査委員会	審査委員長：新田和宏（近畿大学教授） 審査委員：八尾 高伸（近畿ろうきん）、中山麻衣子（税理士）、 原島 照司・石井 康史（真如苑）		

事業名	<b>新型コロナ対応緊急プログラムの緊急助成プログラムの緊急助成第2弾の広報活動とフォローアップ活動</b>
担当	高橋
主催	公益財団法人庭野平和財団
	関西地域の中小 NGO を対象とした緊急助成プログラムのための事務局を務めた。（採択団体は非公開）
事務局期間	2010 月 12 月 1 日～2010 年 12 月 31 日

## 5. NGO 活動に関する人材育成事業

事業名（継続）	<b>インターン受け入れ</b>
担当	事務局：佐野、谷川、仲井
インターン	<p>大阪大学外国語学部3年の竹西優香さん 6月～3月まで受け入れた。主に、関西 NGO 協議会のホームページ、SNS 広報業務の企画立案、広報マニュアルの作成を担当した。また、令和2年度外務省 NGO 研究会の補助業務、ワンフェスユース事業の広報補助業務を担当した。広報に関するトレンドを調査し、提案書を作成した。</p>
	<p>立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部1年の鈴木千花さん 7月～3月まで受け入れた。主に、ワンフェスユース事業の高校生の社会課題への向上を目的とした「ユース提言セクション」のコーディネーションや高校生実行委員会のクラウドファンディングの実施支援を担当した。高校生委員への啓発効果、継続的な活動につなげるための提案書を作成した。</p>
	<p>大阪大学大学院人間科学研究科修士課程1年の小松勇輝さん 10月～1月まで受け入れた。主に、ワンフェスユース事業の「高校生によるポスターセッション」のオンライン化に伴う業務効率化、事前審査の業務、ブラッシュアップ交流会の補助業務、当日の司会進行を担当した。また、ポスターセッションプログラムの現状を分析し、提言書を作成した。</p>

事業名	<b>JICA NGO 等提案型プログラム NGO・市民社会組織のための危機管理・安全管理オンライン研修開催協力</b>
担当	事務局：高橋、仲井
インターン	<p>JaNISS が実施する NGO・市民社会組織のための危機管理・安全管理オンライン研修の関西研修受け入れ協力団体として研修ファシリテーターを含むロジ業務等で協力した。両研修とも約25名の参加があった。</p> <p>&lt;安全管理者向け研修&gt;</p> <p>1日目：2021年2月18日（木）9:30-12:30 2日目：2021年2月19日（金）09:30-12:00</p> <p>&lt;現地活動スタッフ向け研修&gt; *3日間に分けて実施</p> <p>1日目：2021年2月24日（水）9:30-12:30 2日目：2021年2月25日（木）9:30-12:30 3日目：2021年2月26日（金）9:30-12:30</p>

## 6. 組織、事務局

理事会	<b>2020 年度理事会の開催</b>																			
担当	事務局：高橋																			
理事	<p>◆常任理事</p> <p>代表理事 三輪 敦子 (特活) AM ネット</p> <p>副代表理事 熱田典子 (公社) アジア協会アジア友の会</p> <p>常任理事 吉椿雅道 (特活) CODE 海外災害援助市民センター</p> <p>◆理事</p> <p>栗田 佳典 (特活) テラ・ルネッサンス</p> <p>田尻 忠邦 (公財) 大阪 YMCA</p> <p>中山 羊奈 (公財) 大阪 Y W C A</p> <p>岡島 克樹 大阪大谷大学 教員</p> <p>平岩 久里子 池坊短期大学 教員</p> <p>中山 麻衣子 税理士</p> <p>村尾 佳子 グロービス経営大学院経営研究科副研究科長/常務理事</p> <p>※高橋美和子 (特活) 関西 NGO 協議会 (職責)</p>																			
監事	<p>岩崎裕保 (特活) 開発教育協会/DEAR</p> <p>武田かおり (特活) AM ネット</p>																			
実施内容	<p>2020 年度は COVID-19 の影響を受け、すべてオンラインで開催された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>日程</th> <th>議題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回</td> <td>5 月 23 日 (土) 18:00-20:00</td> <td>理事の業務・役割分担、役職 COVID-19 対応 みんなおんなじ空の下基金</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>7 月 30 日 (木) 18:00-20:00</td> <td>みんなおんなじ空の下基金 ワンフェスユース開催、COVID-19 対応</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>12 月 28 日 (月) 18:00-20:00</td> <td>2021-2022 理事改選について ワンフェスユース運営体制など 事業整理、事業計画について</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>2 月 4 (木) 18:00-20:00</td> <td>理事選挙行程・選挙管理委員会の決定 事務局人員体制 COVID-19 感染症対応</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>4 月 26 日 (月) 18:00-20:00</td> <td>2020 年度活動計画書・予算 2019 年度活動報告・決算 事務局労務体制、次年度人員体制</td> </tr> </tbody> </table>		回数	日程	議題	第 1 回	5 月 23 日 (土) 18:00-20:00	理事の業務・役割分担、役職 COVID-19 対応 みんなおんなじ空の下基金	第 2 回	7 月 30 日 (木) 18:00-20:00	みんなおんなじ空の下基金 ワンフェスユース開催、COVID-19 対応	第 3 回	12 月 28 日 (月) 18:00-20:00	2021-2022 理事改選について ワンフェスユース運営体制など 事業整理、事業計画について	第 4 回	2 月 4 (木) 18:00-20:00	理事選挙行程・選挙管理委員会の決定 事務局人員体制 COVID-19 感染症対応	第 5 回	4 月 26 日 (月) 18:00-20:00	2020 年度活動計画書・予算 2019 年度活動報告・決算 事務局労務体制、次年度人員体制
回数	日程	議題																		
第 1 回	5 月 23 日 (土) 18:00-20:00	理事の業務・役割分担、役職 COVID-19 対応 みんなおんなじ空の下基金																		
第 2 回	7 月 30 日 (木) 18:00-20:00	みんなおんなじ空の下基金 ワンフェスユース開催、COVID-19 対応																		
第 3 回	12 月 28 日 (月) 18:00-20:00	2021-2022 理事改選について ワンフェスユース運営体制など 事業整理、事業計画について																		
第 4 回	2 月 4 (木) 18:00-20:00	理事選挙行程・選挙管理委員会の決定 事務局人員体制 COVID-19 感染症対応																		
第 5 回	4 月 26 日 (月) 18:00-20:00	2020 年度活動計画書・予算 2019 年度活動報告・決算 事務局労務体制、次年度人員体制																		

常任理事会	<b>2020 年度常任理事会の開催</b>
常任理事	三輪敦子（代表理事）、熱田典子（副代表理事）、吉椿雅道（常任理事） 事務局：高橋
実施日	理事会前、必要に応じて開催 【会場】関西 NGO 協議会事務局、オンラインの併用

監査	<b>2020 年度事業及び会計監査の実施</b>
監事	岩崎裕保・武田かおり
実施日	2021 年 5 月 11 日 【会場】関西 NGO 協議会事務局、オンラインの併用

選挙	<b>2021-2022 理事選挙の実施</b>
管理委員会	委員長東川貴子（緑の地球ネットワーク）、田中十紀恵（個人会員）
	理事の任期終了に伴い理事の選出を行うため立候補の受付、公示、投票及び投票結果に至る一連の業務を担った。

2020 年度事務局体制	
事務局スタッフ	高橋美和子（事務局長/職責理事） 佐野光平（ワンフェスユース事業担当） 仲井友佳子（SDGs 普及啓発/K-SDGs） 谷川詩織（広報/会員管理/会計/業務補佐） 中川寛子（補助業務全般）
委託/ アルバイト	佐久間量子*業務委託 井川定一*業務委託 田中十紀恵（前 KNC 職員） 林徹郎（大阪教育大学 3 年） 山下凌司（元インターン生）
インターン	竹西優香、鈴木千花、小松勇輝
ボランティア	中村順子、和田みのり

2020 年度ワンフェス forYouth 運営委員会	
運営委員長	運営委員長：
監事	栗田佳典（(特活) テラ・ルネッサンス） 副運営委員長： 杉浦真理（立命館宇治中学校・高等学校教員）

	鈴木千花 (Japan Youth Platform for Sustainability 事務局参画部) 監事： 田中めぐみ (京都女子中学校・高等学校教員) 坂西卓郎 ((公財) PHD 協会)
運営委員 (所属組織)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府教育センター</li> <li>・大阪府立渋谷高等学校</li> <li>・大阪府立北摂つばさ高等学校</li> <li>・兵庫県立兵庫高等学校</li> <li>・神戸龍谷中学校高等学校</li> <li>・灘中学校・高等学校</li> <li>・京都女子中学校・高等学校</li> <li>・立命館宇治中学校・高等学校</li> <li>・立命館守山中学校・高等学校</li> <li>・YMCA 学院高等学校</li> <li>・大阪大学 CO デザインセンター</li> <li>・(公社) アジア協会アジア友の会</li> <li>・(公財) 大阪 YMCA</li> <li>・(特活) 開発教育協会</li> <li>・(特活) テラ・ルネッサンス</li> <li>・(公財) PHD 協会</li> <li>・(一社) ソーシャルギルド</li> <li>・ワンフェスユース OV 会</li> <li>・朝日新聞社</li> <li>・リタワークス株式会社</li> <li>・(特活) 関西 NGO 協議会※事務局</li> </ul>
事務局	佐野光平、谷川詩織、高橋美和子、仲井友佳子

2020 年度ワンフェス forYouth 高校生実行委員会	
メインフォーカル 代表 顧問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム実施セクションメインフォーカル： 武村桃子 (立命館宇治高校)</li> <li>・イベント運営セクション共同代表 大崎蒼依 (近畿大学附属高等学校) 山本悟士 (兵庫県立兵庫高校)</li> <li>・ユース提言セクション共同代表 菅 礼実 (京都女子高校) 樋口 真由 (京都女子高校)</li> <li>・顧問： 田尻忠邦、鈴木一弘 (大阪 YMCA) 杉浦真理 (立命館宇治高校教員)</li> </ul>

実行委員 11 名 (所属高校)	大阪インターナショナルスクール 関西外語専門学校 国際高等課程 関西学院千里国際高等部 京都女子高等学校 近畿大学附属高等学校 神戸龍谷高等学校 兵庫県立兵庫高校 桃山学院高等学校 立命館宇治高等学校 立命館守山高等学校
事務局	佐野光平、仲井友佳子、高橋美和子

2020 年度関西地域 NGO 助成プログラム審査委員会	
審査委員	新田和宏（近畿大学教授/個人会員） 浦田和久（近畿ろうきん地域共生推進室） 中山麻衣子（税理士） 原島・石井（真如苑社会交流部/賛助会員）
理事	中山麻衣子
事務局	高橋美和子

2020 年度 NGO 研究会 COVID 研究委員会	
委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関西 NGO 協議会 熱田典子</li> <li>・ 関西 NGO 協議会提言専門委員政策アドバイザー 井川定一</li> <li>・ NGO 安全管理イニシアティブ (JaNISS) コーディネーター 折居徳正</li> <li>・ セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン グローバル戦略ディレクター 塩畑真里子</li> <li>・ 難民を助ける会 (AAR Japan) 専務理事・事務局長 堀江 良彰</li> <li>・ NGO 福岡ネットワーク 連携推進担当 河上雅夫</li> </ul>
調査統括	高橋美和子